

新学習指導要領で求められる 「伝統や文化に関する教育」の充実に向けた教職員研修講座

埋蔵文化財センター

学習指導のヒントが見つかる

夏季休業期間中に、上野原縄文の森と連携し、以下の教職員研修講座を実施しました。

- 体験・体感 縄文の森
【パワーアップ研修（講座選択研修）対象】
- 先生のための考古学講座
【フレッシュ研修や希望者対象】
- 課題研修Ⅱ【パワーアップ研修対象】
- 地域体験研修【フレッシュ研修対象】

埋蔵文化財センターや縄文の森の業務と役割について紹介し、発掘調査報告書作成のための整理作業を体験したり、県内の歴史や埋蔵文化財について学んだりする講座となっています。また、滑石という石を削ったアクセサリーや竹を利用した弓矢などを作る体験活動を行いました。

今年度は、さらに新学習指導要領に向けて研修内容を工夫しました。

文化財を活用した授業づくり

今回の研修の目玉は、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の質的改善です。ブレインストーミングや親和図の作成を通して、埋蔵文化財を活用した学習指導について考えを深めました。「何ができるようになるか（めあて・指導目標）」「何を学ぶか（教科名・題材単元）」「どのように学ぶか（方法・学び方）」のそれぞれを具体化し、授業を体系的につくりあげていくなかで、様々なアイデアが出され、充実した討議が行われました。



【ブレインストーミング・親和図の作成】

児童生徒の興味関心を高める

埋蔵文化財センターでは、「本物の土器や石器などの実物資料を授業で活用したい」との学校の先生方の声に応え、『まいぶんキット』の貸し出し事業を行っています。研究授業や授業参観でも活用され、児童生徒だけでなく、教員・保護者・地域住民からもたいへん好評だと伺っています。

また、センター職員が学習指導案を作成し、本物の資料や発掘調査の成果等を効果的に使用して授業を行う『ワクワク考古楽』も実施しています。本物の埋蔵文化財を手にとって触れる機会をつくり、発掘調査の話をしたりすることで、児童生徒の興味関心は高まり、探究心や郷土愛も培われます。社会科をはじめ総合的な学習の時間等、あらゆる教科・領域で文化財を活用した学習の場を提供する取組がより一層求められていると考えています。

『ワクワク考古楽』

県内各地の小・中・高等学校に、埋蔵文化財の専門職員がお伺いして授業支援をしています。今年度は、自分の通う学校の校内や校区内で発掘された土器や石器に触れたり、近くにある遺跡を紹介したりして、自分の住む地域には、人々が暮らしてきた長い歴史があり、それが現在まで続いていることを体感してもらいました。また、西南戦争に関連した授業では、発掘調査で発見され、実際に戦闘で使用されたと考えられる出土品を子供たちが触れる活動を取り入れました。そこから、薩軍と政府軍の装備の違いを知り、西南戦争についての理解を深めることができました。



【身近な地域の遺跡を紹介する】